

JR東海労

4WD

大阪第一・二運輸所分会

No.47

2017年4月04日

ユニオン・森田本部副委員長殿！ JRCP組合員の意見を吸い上げて下さい！

2月6日、JR東海ユニオンは第31回定期中央委員会を開催しました。当然、春闘の大幅賃上げ要求の実現にむけての課題が最重要課題であったことには間違いのないと思います。しかし、その内容は、19名の委員から職場に山積する問題と本部への意見であったと聞きます。

中央委員会の前段「職場討議資料」には当面の重点活動を提起となっておりますが、12月に会社から「新幹線乗務員の見直しについて」が提案された後にも関わらず、ひと言もその問題については書かれていません。新幹線の乗務員の大幅な要員削減となる問題は、ユニオンにとっては「重要課題」ではないのでしょうか。

現在のユニオンと会社とのやり取りを見ていると、「労使協議」の結果を伝えるだけの「会社の広報部」の役割を担っている状態です。

中央委員会で発言した職場の代表者の意見は、新幹線の職場代表者からは全て「新幹線車内業務の見直し」に関する要員・安全問題について発言され、在来線、駅の代表者からも要員問題や超勤の問題について意見が出されました。

ユニオン本部の無責任な答弁では 職場の問題は改善しない！

これらの切実な職場からの発言に対する尾形本部書記長の答弁では、「制度に絡む諸問題については…全力で労使協議を積み重ねる」と言うだけで「反対」とも「問題がある」とも言っていません。

運輸所社員が出向するJRCP、 労働条件は大丈夫か！？

特徴的には、森田副委員長が《グループ関係》について、会社提案に絡む問題がJRCP内にもあり、「パーサーも多く不安を抱えている」「離職率が高い」「会社経営が順調とは言いづらい」とし、今後もJRCP組合員の声を吸い上げていくと答弁しています。声を吸い上げるだけでなく、パーサーの現場の声を会社にぶつけて労働条件の改善のために会社にモノを言って頂きたいと思います。

確か、森田副委員長は大阪第二運輸所の所属だったはずですが、会社との「協議」ばかりで職場の組合員の顔を忘れてしまったのでしょうか。組合員が悩み、困ってる顔を思い返して「新幹線車内業務の見直し」に問題があることを訴えて頂きたいです。